

「読み」におけるメディアの選好による利用者の類型化

宮田洋輔（慶應義塾大学非常勤） m@miyay.org

國本千裕（千葉大学） 倉田敬子（慶應義塾大学） 上田修一（慶應義塾大学）

抄録

現代の「読み」の様相を明らかにするため、目的、方法、状況などが異なるさまざまな「読み」において、紙メディアとデジタルメディアのどちらを好むかに関する意識を調査した。2012年8月に、1,755人を対象とした25問の「読み」に関するメディア選好を尋ねるインターネット調査を行った。得られた回答に基づいて、階層的クラスタ分析を行い、メディア利用者を類型化した。その結果、6つのクラスターが見出された。

1. はじめに

1.1. 背景

日常生活の中で、意識をすることは少ないが、スクリーンを通してデジタル化されたテキストを読む機会が次第に増え、紙や印刷版を読むことが明らかに少なくなりつつある。特に、スマートフォンやタブレットのような新しい端末の登場などによって、デジタルな読みが一層、優勢になっている。スクリーンを通じてデジタルで読むことと、書類や本を読むことの違いは行為者にとってどのように捉えられているのかを明らかにすることは、メディアを理解する上での重要な課題の一つとなっている。

1.2. 先行研究

Liu は、過去10年間でどれだけ読むという行為が変化したかを分析するために、2003年にデジタル環境における読書について質問紙調査を行い、エンジニア、科学者、会計士、教師などと大学院生、計113件の回答を分析した¹⁾。その結果、10年間で読むことに費やす時間が増加していること、画面上での読みはブラウジング、スキミング、一回限りの読み、非線形な読み、選択的な読みによって特徴づけられること、深く、集中して読む時間が減っていることなどが明らかになった。

さらに、同じ質問紙調査を2007年に中国中山大学の203名の大学生(女性:123名、男性:80名)を対象に行った²⁾。その結果、女性の読者のほうが紙を好んでおり、男性の読者は女性よりオンライン上での読みの高い満足度を示した。

Shrimplin らは、電子書籍への抵抗の原因を深く理解するために、マイアミ大学の17人の教員と学生とのインタビュー調査に基づいて、利用者の意見を、Q方法論を用いて分析した³⁾。その結果、電子書籍に対する利用者の意見を以下の4つに分類した。物理的なものとしての印刷本を好む「愛書家(Book Lovers)」、アクセシビリティと

検索が、触知可能性や携帯性における損失も上回ると信じている「技術オタク(Technophiles)」, 本の利用は、学術書が中心で、望みのコンテンツを検索できる特徴を評価する「実用主義者(Pragmatists)」, スクリーン上での電子テキストの読みづらさのために印刷本を好む「印刷屋(Printers)」の4つである。

同研究グループは、継続研究として、大学内で4つの意見タイプがどれくらいを占めるのかを明らかにするために、マイアミ大学の全教職員と学部学生、大学院生からの無作為標本に対して調査を依頼し、1,471件の回答を得た。その結果、参加者の34%が愛書家、23%が技術オタク、17%が実用主義者、26%が印刷屋であった⁴⁾

1.3. 研究目的

Liu の研究は、10年前との変化を記憶に頼っており、回答者が大学院生と大学生に大きく偏っている。Shrimplin らのグループの研究は、電子書籍への意見に基づき人々の類型化を試みた、興味深い研究であるが、より広い調査対象を考えた場合、Shrimplin らの4分類以上の広がりを持つ可能性が考えられる。

本研究では、Shrimplin らの調査を参考に、目的、方法、状況などが異なるさまざまな「読み」において、紙メディアとデジタルメディアのどちらを好むかについて広範囲な対象に質問し、その回答に基づき類型化することにより、現代の「読み」の様相を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

2.1. インターネット調査

「読み」における、紙メディアとデジタルメディアの選好に関する調査を行った。株式会社マクロミルの、パネルを利用したインターネット調査によって回答を得た。居住地域(7地域)、年齢(5区分)、性別で均等に割付を行い、2012年8月1日から4日の間に1,755名から回答を得た。表

1 に回答者の属性の概要を示した。

表 1 回答者属性の概要

性別	居住地域	年代					合計
		18-29歳	30代	40代	50代	60代	
男	北海道・東北	25	25	25	25	25	125
	関東	25	25	25	25	25	125
	中部	25	25	26	26	25	127
	近畿	25	25	25	25	25	125
	中国	25	25	25	25	25	125
	四国	25	25	25	25	25	125
女	北海道・東北	25	25	25	26	25	126
	関東	25	25	25	25	25	125
	中部	25	25	25	25	25	125
	近畿	25	25	25	25	25	125
	中国	25	25	25	25	25	125
	四国	25	25	25	25	25	125
九州		25	26	25	25	25	126
合計		350	351	351	353	350	1,755

2.2. 質問項目

メディアの選考に関する 25 問の質問は、メディアの読みに関する先行研究での言及や先行調査での質問項目から導き出した^{1)~7)}。表 2 に、先行調査と質問項目との関係を示した。

表 2 質問項目と先行研究

類型	質問項目	引用文献番号				
		1),2)	3)	5)	6)	7)
目的	1 娯楽の読書		✓			
	2 仕事・勉強の読書		✓			
方法	3 全体を読み通す			✓	✓	
	4 内容の一部を読む		✓		✓	
	14 全体をざっと流し読み			✓	✓	✓
	15 深く読み込む			✓	✓	
	16 集中して読み続ける		✓		✓	
	17 一度しか読まない		✓			
	18 飛ばし読み		✓			✓
	20 繰り返し読む			✓		
付随行為	9 整理する			✓		
	10 保存する			✓		
	11 特定の箇所を探す			✓	✓	
	12 注釈を入れる		✓		✓	✓
	13 手に入れる			✓	✓	✓
状況	5 写真・図入りのものを読む				✓	
	7 電車等で移動中に読む				✓	✓
	8 旅行にまとめて持って行く			✓		
気分	6 読み始めやすい			✓		
	19 他の事柄に注意がいく		✓			
	21 くつろぎながら読む			✓	✓	✓
	22 読み続けるのが楽			✓		
	23 達成感がある			✓		
	24 内容が頭に入る			✓		
	25 読んでいて気分がいい		✓	✓		✓

たとえば、Liu らにおける「選択的読み」¹⁾²⁾や、Shrimplin ら³⁾、Hillesund⁵⁾の 3 つの研究にあらわれている「内容の一部を読む」という読みの方法に基づいて、「内容の一部だけを読む」という設問を作成した。また、同じ 3 文献に加えて、Shabani ら⁶⁾でもあらわれている、読む対象に

「注釈を入れる」という読みの付随行為から「線やマーカーを引いたりメモ書きする」という設問を作成した。

このようにして、先行研究でのメディアと読みの関係を分析し、25 問の質問項目を作成した。

3. 調査結果

3.1. 意識調査

各質問に対する回答を表 3 に示した。調査の結果、16 問では、「紙」あるいは「どちらかという紙」と答えた紙メディアを好む回答者が多かった。残りの 9 問では「デジタル」あるいは「どちらかというデジタル」と答えたデジタルメディアを好む回答者が多かった。

紙メディアが好まれた 16 問のうち、特に「紙」が 6 割以上の回答者に選ばれたのは、以下の 7 問であった。読みの目的としては「娯楽としての読み」で、特に紙メディアが好まれていた。「最後まで読む」、「メモ書きする」、「深く読む」、「集中して読む」など精読するならば、紙メディアという意識が強い。また、紙メディアは、「くつろぎながら読みたい」、「達成感がある」など、心情面から紙メディアを好む回答者が多いことが分かった。

紙メディアよりデジタルメディアが好まれた質問は、9 問であった。「内容の一部だけを読む」や「必要な部分だけを飛ばし読みしやすい」、「読みたい箇所を探しやすい」というような、内容の一部を選択的に読むような場合や「一度だけしか読まないもの」のような特定の読みの場合にはデジタルメディアが好まれていた。

ほかには、「整理しておきやすい」、「保存しておきやすい」という効用や、「旅行にまとめて持って行く」の携帯性、「写真や図が入ったものを読むとき」のようなマルチメディア性が評価されていた。一方で、「読んでいる最中に他の事柄に注意がいきやすい」のもデジタルメディアであった。

3.2. クラスタ分析

メディアの選好の回答を用いて、階層的クラスタ分析を行い、利用者をクラスタ化した。階層的クラスタ分析には、データ解析環境 R の hclust 関数を利用した。各設問への利用者の回答を、「デジタル」、「どちらかというデジタル」、「どちらも当てはまらない」、「どちらかという紙」、「紙」の順で等間隔の尺度として、ユークリッド距離によって、回答者間の距離行列を算出した。クラスタ間の距離関数はワード法を用いた。

クラスター分析から得られた結果は、Excel 上で質問文との関係を分析し、各クラスターを解釈した。階層的クラスター分析の結果、回答者を 6 つのクラスターで解釈するのが適切とした。

1. 「絶対紙」派
2. 「準紙」派
3. 「効用重視」派
4. 「折衷」派
5. 「デジタル」派
6. 「選べない」派

「絶対紙」派と「デジタル」派は、回答が、多くの質問に対して、紙かデジタルかのどちらかのメディアに完全に寄っているクラスターであった。また、「選べない」派は、「どちらも当てはまらない」の回答が多く、特徴がそれ以上には見いだせないクラスターであった。

クラスター 2~4 は、紙メディアを好みながらも徐々にデジタルメディアへの選好が増していく傾向があった。

「準紙」派は、集中した深い読み方や心情面(くつろぎなど)の設問では 8 割から 9 割が「紙」を選ぶが、「一度しか読まない」、「ざっと読む」のような特定の読み方の設問にのみデジタルメディアを好む傾向があった。

「効用重視」派は「準紙」派と比較すると、「整理」、「保存」、「検索」といった読み付随する行為に関する設問でデジタルメディアを評価する

傾向があるクラスターであった。

「折衷派」は紙かデジタルかということでは紙だが、全体に「紙」よりも「どちらかという紙」を選ぶ割合の方が多くなっている。また、設問 4, 5, 8 は「準紙」派や「効用重視」派でも「デジタル」と「どちらかというデジタル」の回答が半数を超えるが、「折衷派」では 6~8 割と多数を占めるようになり、デジタルを好む傾向がより強くなっている。

表 4 に回答を 1 点(デジタル)~3 点(当てはまらない)~5 点(紙)として、クラスターごとに、紙を好む傾向を数値化した。「絶対紙」派は、最大値 125 点に対して、平均が 120 点を超過しており、「絶対紙」派のほとんどがほぼ全ての設問に「紙」と答えていた。一方で、「デジタル」派は、デジタルメディアを好む傾向にあり平均は 60.9 点と低い。標準偏差が 13.9 点と最も高く、回答にかなりのばらつきがあることが推測される。「準紙」派から「折衷」派は、標準偏差は同程度であるものの、平均がそれぞれ 10 点程度ずつ下がっている。図 1 に各クラスターの得点の確率密度グラフを示した。

表 5 に属性別での各クラスターの人数を集計した。各クラスターと属性との関係性を分析するために、 χ^2 乗検定を行った。その結果、クラスターと、性別 ($p < 0.01$)、年代 ($p < 0.01$) との間に有意な関連が見られた。

表 3 メディアの選好に関する回答の概要

質問	デジタル		どちらかという とデジタル		どちらかという と紙		紙		どちらも当て はまらない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1) 娯楽の読書をするならば、どちらを選びますか?	63	3.6%	136	7.7%	457	26.0%	1,059	60.3%	40	2.3%
2) 仕事や勉強用の読書をするならば、どちらを選びますか?	74	4.2%	218	12.4%	520	29.6%	888	50.6%	55	3.1%
3) 内容全体を最初から最後まで読み通すならばどちらを選びますか?	45	2.6%	104	5.9%	412	23.5%	1,157	65.9%	37	2.1%
4) 内容の一部だけを読むならばどちらを選びますか?	354	20.2%	756	43.1%	304	17.3%	301	17.2%	40	2.3%
5) 写真や図が入ったものを読むときにはどちらがいいですか?	280	16.0%	576	32.8%	339	19.3%	512	29.2%	48	2.7%
6) 読みはじめるのに取っ掛かりやすいのはどちらですか?	190	10.8%	391	22.3%	381	21.7%	727	41.4%	66	3.8%
7) 電車等での移動中に読みたいのはどちらですか?	175	10.0%	300	17.1%	335	19.1%	789	45.0%	156	8.9%
8) 旅行にまとめて持って行くならばどちらがいいですか?	407	23.2%	562	32.0%	201	11.5%	464	26.4%	121	6.9%
9) 整理しておきやすいと思うのはどちらですか?	474	27.0%	618	35.2%	206	11.7%	382	21.8%	75	4.3%
10) 保存しておきやすいと思うのはどちらですか?	497	28.3%	573	32.6%	215	12.3%	409	23.3%	61	3.5%
11) 読みたい箇所を探しやすいのはどちらですか?	402	22.9%	508	28.9%	288	16.4%	486	27.7%	71	4.0%
12) 線やマーカーを引いたりメモ書きするにはどちらがいいですか?	86	4.9%	124	7.1%	369	21.0%	1,104	62.9%	72	4.1%
13) 手に入れやすいと思うのはどちらですか?	217	12.4%	380	21.7%	361	20.6%	702	40.0%	95	5.4%
14) 全体をざっと流し読みするにはどちらがいいですか?	196	11.2%	460	26.2%	377	21.5%	662	37.7%	60	3.4%
15) 深く読み込みたい場合にはどちらがいいですか?	35	2.0%	77	4.4%	390	22.2%	1,206	68.7%	47	2.7%
16) 集中して読み続けられるのはどちらですか?	41	2.3%	77	4.4%	369	21.0%	1,207	68.8%	61	3.5%
17) 一度だけしか読まないもの場合にはどちらがいいですか?	462	26.3%	698	39.8%	237	13.5%	281	16.0%	77	4.4%
18) 必要な部分だけを飛ばし読みしやすいのはどちらですか?	308	17.5%	576	32.8%	324	18.5%	473	27.0%	74	4.2%
19) 読んでいる最中に他の事柄に注意がいきやすいのはどちらですか?	400	22.8%	629	35.8%	227	12.9%	319	18.2%	180	10.3%
20) 何度も繰り返し利用したいのはどちらですか?	99	5.6%	184	10.5%	372	21.2%	1,011	57.6%	89	5.1%
21) くつろぎながら読みたいのはどちらですか?	51	2.9%	131	7.5%	395	22.5%	1,111	63.3%	67	3.8%
22) 読み続けるのが楽なのはどちらですか?	60	3.4%	162	9.2%	389	22.2%	1,051	59.9%	93	5.3%
23) 読んでいて達成感があるのはどちらですか?	48	2.7%	84	4.8%	344	19.6%	1,171	66.7%	108	6.2%
24) 読んだときに内容が頭に入りやすいのはどちらですか?	39	2.2%	83	4.7%	435	24.8%	1,014	57.8%	184	10.5%
25) 読んでいて気分がいいのはどちらですか?	43	2.5%	111	6.3%	423	24.1%	944	53.8%	234	13.3%

表 4 各クラスターの得点の概要

	n	%	平均	s.d.
絶対紙	166	9.5%	120.7	4.6
準紙	219	12.5%	105.1	7.8
効用重視	447	25.5%	97.1	8.7
折衷	631	36.0%	84.3	8.4
デジタル	182	10.4%	60.9	13.9
選べない	110	6.3%	88.8	10.4
合計	1,755	100.0%	91.5	17.6

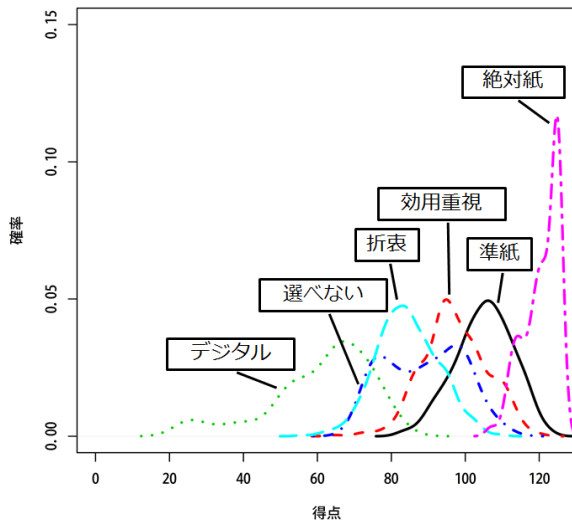


図 1 各クラスターの得点の確率密度グラフ

4. 考察

メディア利用者の紙メディアとデジタルメディアと選好を尋ねる調査を行った。その結果、どのよ

うな場合でもいずれかのメディアを好む「絶対紙」派と「デジタル」派の間が、「選択的な読み」、デジタルメディアの「効用性」、紙とデジタルの「折衷」によって層化されることが明らかになった。

引用文献

- 1) Liu, Z. Reading behavior in the digital environment. *Journal of Documentation*. 2005, vol.61, no.6, p.700-712.
- 2) Liu, Z; Huang, X. Gender differences in the online reading environment. *Journal of Documentation*. 2008, vol.64, no.4, p.616-626.
- 3) Shrimplin, A.K., et al. Contradictions and consensus. *C & RL*. 2011, vol. 72 no. 2, p. 181-190.
- 4) Reville, A, et al. Book Lovers, Technophiles, Pragmatists, and Printers. *C & RL*. 2012, vol. 73, no. 5, p. 420-429.
- 5) Hillesund, T. Digital reading spaces. *First Monday*. 2010, vol.15, no.4/5, <http://goo.gl/IJ9J>
- 6) Shabani, A et al. Reading behavior in digital environments among higher education students. *Library Review*. 2011, vol.60, no.8, p.645-657
- 7) Rounceld, M; Tolmie, P. "Digital Words". *The Connected Home: The Future of Domestic Life*. Harper Richard,ed. Springer, 2011, p.133-162.

表 5 クラスタと属性の集計

	紙		準紙		効用重視		折衷		デジタル		選べない		合計 n
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
性別													
男	76	8.7%	87	9.9%	217	24.7%	328	37.4%	102	11.6%	68	7.7%	878
女	90	10.3%	132	15.1%	230	26.2%	303	34.5%	80	9.1%	42	4.8%	877
年代													
18-29歳	19	5.4%	33	9.4%	84	24.0%	140	40.0%	52	14.9%	22	6.3%	350
30代	23	6.6%	38	10.8%	79	22.5%	151	43.0%	37	10.5%	23	6.6%	351
40代	48	13.7%	33	9.4%	101	28.8%	117	33.3%	31	8.8%	21	6.0%	351
50代	38	10.8%	50	14.2%	84	23.8%	123	34.8%	38	10.8%	20	5.7%	353
60代	38	10.9%	65	18.6%	99	28.3%	100	28.6%	24	6.9%	24	6.9%	350
居住地域													
北海道・東北	32	12.7%	28	11.2%	60	23.9%	87	34.7%	29	11.6%	15	6.0%	251
関東	26	10.4%	36	14.4%	62	24.8%	88	35.2%	25	10.0%	13	5.2%	250
中部	20	7.9%	27	10.7%	70	27.8%	98	38.9%	20	7.9%	17	6.7%	252
近畿	30	12.0%	30	12.0%	62	24.8%	80	32.0%	26	10.4%	22	8.8%	250
中国	14	5.6%	42	16.8%	65	26.0%	89	35.6%	25	10.0%	15	6.0%	250
四国	17	6.8%	32	12.8%	56	22.4%	102	40.8%	27	10.8%	16	6.4%	250
九州	27	10.7%	24	9.5%	72	28.6%	87	34.5%	30	11.9%	12	4.8%	252
合計	166	9.5%	219	12.5%	447	25.5%	631	36.0%	182	10.4%	110	6.3%	1,755